

中国における都市政策と若年農民工出稼ぎに関する 研究：若年農民工の労働・生活・意識に関する実態 調査を通して

曹, 家寧

<https://hdl.handle.net/2324/2556302>

出版情報：九州大学, 2019, 博士（学術）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

要旨

中国では、1978年に改革開放政策を導入して以来、経済の急速な発展と都市化に伴い、社会において格差拡大が問題視されるようになってきている。特に、若年農民工に関わる階層格差問題が顕在化し、それと同時に、地域間の経済格差問題も拡大する傾向が見えてくる。これらの問題を解決し、持続可能な発展をする社会を構築するために、中国中央政府は2014年3月に「国家新型都市化政策（2014-2020）」（以下、「政策」）を打ち出した。注目すべきなのは、「人の都市化」という「政策」の主な目標を実現するために、地方政府が農村戸籍者に都市戸籍を付与し、彼らを都市戸籍システムに編入することである。ただし、若年農民工に対して、地方政府が実施する具体的政策は、伝統的大都市と近年急速に発展してきた新興大都市との間では、大きな差異があると言わざるを得ない。

こうした背景を踏まえ、本論文では、三つの方面をめぐって考察を行っている。まず、中国の新型都市化進展の実態に基づき、「政策」の背景、内容および目標を結び合わせ、伝統的大都市である北京市と新興大都市である江蘇省南京市を事例として、二つのタイプの都市の都市化進展の現状、目標、特に若年農民工の定住に関わる政策を考察する。そして、新型都市化政策の下におけるこの二つのタイプの都市に出稼ぎする若年農民工の生活・労働・定住の現状とその意識を考察する。最後に、若年農民工をめぐる「政策」の効果を考察した上で、「人の都市化」の実現および若年農民工の格差問題の解決策を提案する。

本論文は六章から構成される。

第1章では、先行研究に関するレビューを行い、本論文の研究背景を論述する。先行研究は、主に農民工一般と本論文の研究対象である若年農民工に焦点を当て、農民工の国内移動と都市政策との関連から、農民工と都市化との関係を論述する。そして、先行研究の問題点を指摘した上で、本論文の研究課題およびその新規性を述べる。

第2章では、若年農民工という社会集団の独自の社会背景を分析する。具体的には、中国国民の身分を区分し、且つ都市化進展に深く関わる「戸籍制度」と、1980年代以降実施された人口抑制政策の「一人っ子政策」という二つの制度の変遷過程を分析した上で、若年農民工自分とその家族をめぐる社会背景を政策面より考察する。

第3章では、中国の都市化進展の実態を明らかにし、「政策」に基づく新型都市化、特に「人の都市化」について分析を行う。また、伝統的大都市である北京市と新興大都市である江蘇省南京市を事例に、二つのタイプの都市の都市化の現状を比較し

ながら、両都市における若年農民工をめぐる都市化プロセスの特徴、制度の枠組み、「政策」の実施状況、および若年農民工の定住に関する「政策」の問題点を明らかにする。

第4章では、伝統的大都市である北京市を取り上げ、アンケート調査とインタビュー調査を通して、若年農民工の生活・労働現状および定住意識を明らかにする。まず、北京市の若年農民工の労働状況に注目し、彼らの賃金、労働時間および社会保険などの問題について、北京市の民営企業・S社の100名の従業員に対してアンケート調査を実施する。その結果、北京市の若年農民工は都市戸籍者や高学歴出稼ぎ労働者と比べて不平等に扱われているものの、他の都市の若年農民工に比べると、比較的平等な待遇を受けていることが判明できる。また、北京市で出稼ぎした経験を持つ3人にインタビュー調査を行う。その結果、「政策」の実施により、北京市での定住や北京市戸籍の取得はほとんど不可能になり、彼らは他の都市に移動したか或いは将来移動することを考えていることがわかる。

第5章では江蘇省南京市で出稼ぎをしている30名の若年農民工に対して行ったインタビュー調査をもとに、出稼ぎ経歴や婚姻・家庭生活、出身地との関係、将来の展望、都市での定住などの問題を中心に、彼らの都市での生活実態および定住希望、都市政策の効果などを考察する。調査の結果、近年北京市のような伝統的大都市から転出した若年農民工は、南京市をはじめとする新興大都市へ流入する傾向が見られる。また、彼らが自己実現や家族戦略のために、都市での定住志向を強めていることが明らかである。ただし、北京市での定住に比べれば、若年農民工にとって南京市は比較的定住しやすいものの、近年、南京市の戸籍取得が困難になりつつあることもわかる。

第6章は結論である。各章の内容をまとめた上で、本論文の結論を示す。さらに、中国において実施されている新たな都市政策を総合的に評価し、若年農民工の格差問題についての解決策を提案する。

本論文では、新型都市化を背景に、中国の伝統的大都市および新興大都市における出稼ぎする若年農民工の生活・労働・定住の現状とその意識を考察した。結論としては、まず、「政策」が打ち出されて以来、中国の各地方政府は若年農民工に対して、積極的に具体的政策を実施していると考えられる。そして、若年農民工はその都市政策の影響の下で、出稼ぎ都市および出稼ぎルートを変更していることが確認できた。最後に、伝統的大都市と新興大都市では「人の都市化」は若年農民工にとっては十分とは言えず、若年農民工は出身地に近い中小都市に定住することを提案する。